

口腔内の常在菌が腸で増えると潰瘍を引き起す

口腔内細菌の腸内での増殖が潰瘍性大腸炎などの炎症性疾患をはじめ、様々な疾患と関連することが指摘されている。しかしながら、その因果的役割についてはよくわかっていない。本研究では、ヒトの唾液を無菌マウスや遺伝的に腸炎を起こしやすいマウスに投与し、口腔内細菌と腸炎との関連について検討した。

その結果、クレブシエラ属の細菌が増殖すると、ヘルパーT細胞（Th1細胞）が誘導されて過剰な免疫反応が起こり、腸の炎症が誘発されることがわかった。健康なマウスでは炎症はみられなかった。（註）クレブシエラ属の細菌は、口腔内や皮膚に存在する常在菌である。したがって、遺伝的に炎症を起こしやすい宿主では、口腔内の常在菌が炎症性の腸疾患を引き起こし、慢性化させる可能性が示唆された。

出典：Science. 2017; 358(6361): 359-365.